

# 総合的な学習の時間における

## 『問題発見・解決能力』の育成

～生徒が自ら「問い」を発見し、社会とつながる探究学習と教育課程の編成～

北海道教育大学附属函館中学校 佐々木 ちひろ

### I はじめに

文部科学省の中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」によれば、探究的な学びは「実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する学習活動<sup>1)</sup>」と定義されている。これは、予測困難な時代において、既存の知識を暗記するだけでは解決できない明快な答えのない問題群に対し、生徒が自ら問題の本質を見付け、問いを立て、解決していく必要があるため、極めて重要視されている学習である。本校では、学校経営方針に基づき、3年間に渡る探究学習を進めている。1・2学年では、目指す生徒像にある「地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組み、知識を深める人」の育成を目指し、地域課題解決型探究学習を進める。3学年では、1・2学年の探究活動で身に付けた資質・能力を活かして、生徒それぞれが興味・関心を起点としたテーマで個人探究学習（卒業研究）を進める。この3年間の探究学習カリキュラムを経て、生徒それぞれが自己の在り方生き方と密接な問いを発見し、将来の進路目標や新たな興味や関心、人生をかけて達成したい目標を見付けるきっかけとなることを目指している。

### II 研究の経過

本校における「総合的な学習の時間」の研究実践の取組土台は、1983年度に本校独自の学習活動として取り組んだ「フリータイム」という授業実践であり、当時より生徒自らが探究課題を設定してその解決に向けて検証を進める学習に取り組む活動まで遡ることができる。「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について（答申）」（文部科学省、1998年）において、「総合的な学習の時間」の創設が盛り込まれてからは、それまでの取組を土台にして、総合的な学習の時間としてのカリキュラムを再構築するなど、形を変えながら継続してきた。

平成 29 年度からの3年間は、「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」を学校研究課題に設定し、各教科の単元学習を探究学習のモデルと関連付けてデザインし、各教科における「学びの地図」を用いて生徒が学習活動で身に付けるべき資質・能力を明らかにした。また、校内全体で生徒の探究学習を支援する動きが体系化され、全校生徒は毎週1時間、所属する研究ゼミにて探究活動を進める取り組みを実践してきた。また、当時から3学年の探究活動では、オンライン会議システムを活用した専門家や有識者の協力の下、インタビュー調査で情報収集を実施してきた。その活動の流れは、現在も引き続き3学年の「卒業研究」において実践されている。（図1・表1）

今年度の本校における探究学習カリキュラムは、令和4年度より北海道教育大学函館校と連携して開発した3年間の探究学習カリキュラムを基盤とする。さらに、各学年の探究活動の充実を目指して、異学年同士の探究活動交流の場面設定や、各学年のカリキュラム内で実施する専門家や地域で活躍する人を知る「探究懇話会」の取組、そして生徒の探究活動範囲を地域社会に繋げる取組を進めている。

図1 3年間の探究活動ロードマップの説明スライド資料（令和7年度入学生用）

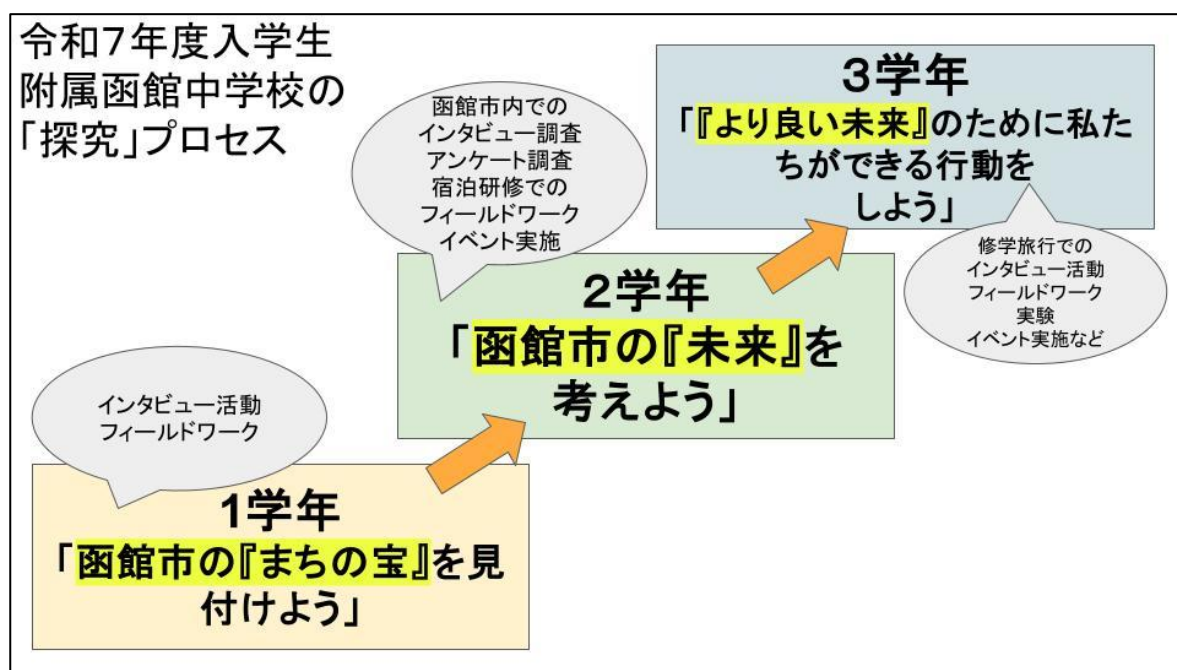


表1 本校における3年間の探究活動について（令和7年度）

各学年の探究活動	各学年の探究活動の概要
1 学年 グループ探究活動A (5～7名の生徒グループで活動)	「函館市の『まちの宝』を見付けよう」 函館市の文化・歴史・建造物・人物などが『まちの宝』であるという仮説を基に、函館市内でのフィールド学習を通じてまちの魅力を発見し、プレゼンテーションでまとめ・発表活動を実施する。
2 学年 グループ探究活動B (4～6名の生徒グループで活動)	「函館市の『未来』を考えよう」 函館市の地域課題を発見し、その課題を解決するために必要な解決策を「アクションプラン」としてまとめる。函館市内と札幌市内でのフィールド学習で得た知見を基に、プレゼンテーションでまとめ・発表活動を実施する。
3 学年 卒業研究 (生徒個人で活動)	「『より良い未来』のために私たちができる行動をしよう」 1・2学年で身に付けた探究スキルを活かし、生徒個人の興味・関心を基に探究課題を設定する。情報収集では、修学旅行時の対面インタビュー調査やオンライン会議システムでのインタビュー調査を実施する。最終成果物として、生徒それぞれが卒業論文を執筆する。

### Ⅲ 本年度の教科研究の方向性

#### (1) 生徒が自ら「問い」を発見・再考する対話機会の充実

生徒がテーマを設定する際には、生徒自身が発見した問いについて、生徒自身の設定する探究課題を多角的・多面的に考えることができるように、同じ学年の生徒同士や教員集団との対話機会（以降、この行動は「壁打ち」と名称する）を設定する。

各学年の探究活動では、生徒個人ないしグループで探究活動テーマが決まった後に、伴走する教員を1名配置する。日頃の探究活動の相談はもちろん、探究活動を進めるにあたり校外での調査活動やオンラインでの調査活動を進める際に、生徒と社会を繋ぐのは教員の役割である。探究活動テーマが決まった後でも、活動を進めていくうちに問いが発見されて、探究活動の方向性や探究活動の課題そのものを検討する必要性を生徒は自然と見出す。その際には、生徒の探究活動の進捗に応じて、活動内容の相談やグループ内の話し合い内容の整理を教員が支援していくことが重要である。

また、今年度より、生徒同士が取り組む探究活動内容を相互に理解し深め合うことができるように、学年ごとだけで実施していた「探究発表会」を、異学年の生徒同士で意見交流できる場面を各学年の年間計画に取り入れた。

2学年生徒の活動計画内では、異学年生徒との探究活動に関する対話の機会を2回設定した。

1回目の異学年交流の対話機会は、9月初旬の「探究中間発表会」である。1学年生徒は発表会に参加し、2学年生徒の地域課題解決に向けたアクションプラン内容について質疑や意見を共有する壁打ちの相手となる。1学年の生徒としては、この参観で自分たちの探究活動を進めるために、2学年が取り組む地域課題から地域の魅力について『函館市の宝』となる問いを見付けることを目標とする。2学年生徒にとっては宿泊研修での調査活動や最終成果発表に向けて現時点での成果と課題を様々な視点から考えることができる。

2回目の異学年同士で探究活動について対話をする機会は、11月中旬の「探究プレ発表会」である。ここでは、3学年の先輩・1学年の後輩生徒からの2学年生徒への探究成果発表に対する多様な意見を共有し合うことで、発表内容の向上はもちろん、2学年生徒の取り組む活動内容や発表内容からそれぞれ自身の探究活動を振り返る場面となりうる。

3学年生徒の「卒業研究発表会」では、2学年の生徒も発表会に参加し、3学年生徒それぞれの発表を聞き、来年度の卒業研究に向けた生徒自身の課題設定に対する事例を学び、生徒個人の興味関心などから探究活動を進めるための問いを見付けることを目標とする。参観者として、3学年生徒の卒業研究内容について質疑や意見を共有することで、3学年生徒にとっては研究活動を様々な視点から振り返ることができる。

#### (2) 社会で活躍する専門家から「問い」を見付ける

今年度の本校3年間の探究活動では、1学年と2学年で地域に根差した探究活動をグループで実施し、最高学年の3学年では生徒の興味関心に基づき様々なテーマで探究活動に取り組む。1学年のグループ探究活動Aで「函館市の『まちの宝』を見付けよう」をテーマに、グループで函館市のまちの人や場所、文化などの魅力を『宝』と称するその背景や根拠を探究する。2学年のグループ探究活動Bでは、「函館市の『未来』を考えよう」をテーマに、グループで函館市の地域課題解決に向けた探究活動

に取り組み、最終成果としてアクションプランを函館市企画部へ送付する。2つの大きな探究活動を地域に根差して取り組んだ後、最高学年の3学年では個人での探究活動を進める。3学年では、『より良い未来』のために私たちができる行動をしよう」というテーマで取り組んでいく。

全学年共通していることは、生徒が自ら探究活動テーマを設定するということである。それぞれの学年によって、探究活動の活動テーマは違えども、どのテーマも生徒自身の興味・関心や日常で感じる疑問や事象を起点とし、自ら問いを発見し言語化することを全学年で重要視している。

しかし、自ら問いを発見し、その問いについて多角的・多面的に考え、その中から今後進めるであろう「探究活動課題」を設定することは生徒全員がはじめからできることではない。興味・関心が強い物事が明確なため、それを基軸として生徒自身で問いを立てることができる生徒もいれば、自身の興味や関心さえ分からない、出会ったことがない、それを言語化するという経験がこれまで少ないという生徒もいる。生徒それぞれによって問いを発見することの得手不得手があるため、課題設定をする前はもちろん、探究活動を進めていくにあたり様々な価値観や考えに触れることが重要である。

本校では、各学年で進める探究活動のテーマごとに「探究懇話会」を授業時間内に設定した。「探究懇話会」では、研究者や市政担当者、函館市内で活躍する社会人などに、それぞれの視点で学問領域や地域課題について研究・活動されている内容や中学生時代の体験談も踏まえて生徒相手に話してもらう機会として実施した。

全生徒が探究活動を進める上での重要性はもちろんであるが、それ以上に、さまざまな価値観に触れることができる学習機会として設定した。(表2)

表2 各学年の探究懇話会テーマと講師

各学年の探究懇話会テーマ	懇話会ゲスト
1 学年 オリエンテーション 「大学探究DAY」 「函館でユニークな活躍をしている先輩たちの話を聞き、地域の課題に取り組む意味を考えてみましょう。」	・函館市内 企業社員 (北海道教育大学卒業生) ・函館市内一般社団法人職員 (北海道教育大学卒業生) ・北海道教育大学函館校学生
2 学年 グループ探究活動B 「函館市の諸課題とその解決について～函館市がより良いまちになるためには?～」	・函館市担当課職員 2名
3 学年 卒業研究 「『頭が良い』とはどういうことか?」 ～研究のおもしろさを学ぼう!～」	・外部大学教員 (本校卒業生)

### （３） 生徒の探究活動を地域社会につなげる

生徒の探究活動が単なる学習機会ではなく、「自己の在り方や生き方と密接につながる問い」となるために、探究活動の様々な場面で学校の外で活動する機会を設定している。

今年度より、宿泊的行事（２年生 10 月宿泊研修、３年生 4 月修学旅行）の中でそれぞれの探究活動とつながるフィールド学習（以下、FWと示す）を実施する。

3 学年生徒は、卒業研究の一環として、生徒個人の研究テーマの近い生徒同士でグループを編成し、修学旅行の自主研修実施日にそれぞれの研究テーマに関する専門を進める研究者や企業等を訪問し、対面でのインタビュー調査を実施した。インタビュー調査の内容を基に、それぞれの探究活動をさらに深める機会になるとともに、そこで得た内容から新たな問いを見出すことを目指した。

修学旅行終了後、さらなる探究活動を進めるために、それぞれのテーマに基づいて多種多様な探究活動を進めた。中には、オンラインで専門家や企業担当者へインタビュー調査を進める生徒や、附属学園内の幼稚園や小学校でワークショップを実施して、その結果を卒業論文執筆に向けたデータとして活用する生徒もいた。

2 学年生徒は、函館市の地域課題解決に向けたアクションプランをまとめるために、地域課題の実態調査や地域課題解決に向けて取り組んでいる企業や専門家への対面インタビュー調査を 7 月に実施した。函館市での FW で収集した情報を整理・分析し、9 月の「中間発表会」に向けて成果をまとめた。さらに、他都市や他地域での先進的な地域課題解決の取組からアクションプランを検討するため、札幌市で実施する宿泊研修の際に札幌圏内の行政機関や企業で対面インタビュー調査を実施予定である。

## IV 研究実践例

### （１） 生徒が自ら「問い」を発見・再考する対話機会の充実

生徒が設定した問いは、探究活動の過程で得られる新たな情報や他者との対話を通じて、常に再考され、深化していく。本校では、教員との壁打ちやグループ内での議論、中間発表会などを通じて、この対話の機会を意図的に設定している。

#### ① 2 学年の実践

2 学年ではグループ探究を基本とし、生徒間の活発な対話を通じて問いを深めることを重視している。

2 学年の探究活動「函館市の未来を考えよう！」の活動初期段階では、活動グループの編成前段階に、1 学年の探究活動「函館市の宝を見付けよう」の中で発見した問いや疑問を学年内の生徒同士で共有し、さらにその中で多くの生徒が考える地域の課題や疑問点を「もやもや」と称して、各グループ内で「もやもやシート」を Canva で作成し、同学年生徒間でワールドカフェ形式による意見交流を実施した。（図 2）

図2 函館市のもやもや（課題）シートで興味関心のある課題を深掘りする（もやもやシート）



ワールドカフェ形式で意見交流をする際には、交流時間の対話形跡を視覚化することで、対話で得た新たな情報や他グループの意見の多様さを全生徒間で共有できるように工夫を施した。

本活動終了後、それぞれのグループで分かれて課題設定をする際には、すべてのグループのホワイトボードが「もやもやシート」で共有され、自グループの対話形跡はもちろん、他グループでの対話形跡も参照し、課題を設定した。

課題設定時には、課題の設定理由や、課題に対する地域の現状などをまとめ、探究活動が本格始動する前に教員に壁打ちピッチを実施した。壁打ち相手の教員は、生徒グループで話し合った内容 Google スライドで作成した「壁打ちスライド」で確認しながら、彼らの着目した問いが探究活動を進める深みがあるのか、グループメンバーがそれぞれ積極的に探究活動を進められる課題設定であるかどうかを確認した。(図3-1、図3-2)

図3-1 「壁打ちスライド」の課題設定背景と地域課題の現状（2学年）

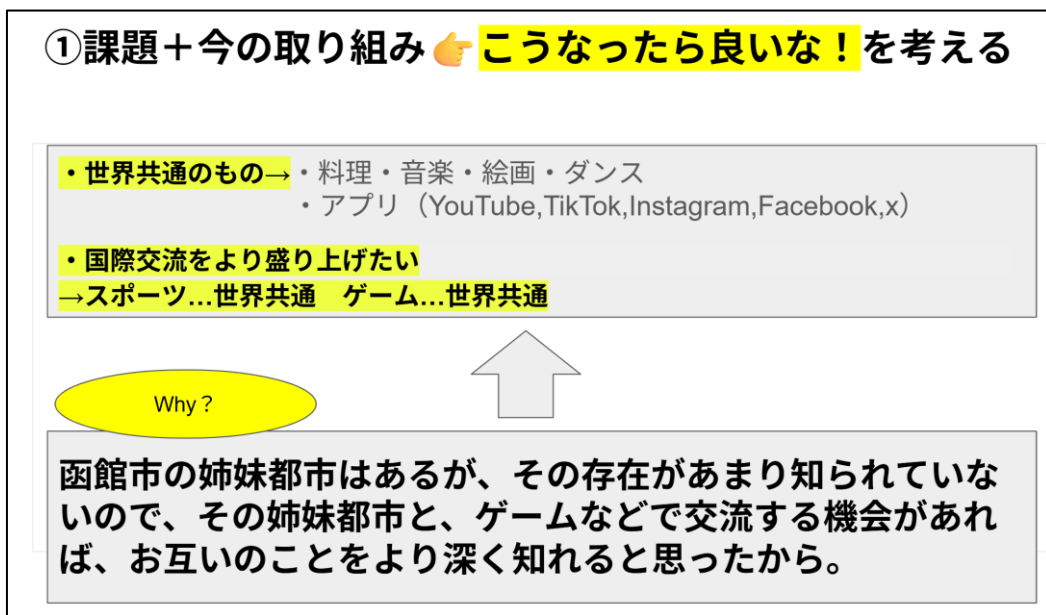


図 3-2 「壁打ちスライド」の課題設定背景と地域課題の現状（2 学年）

**②今、現在の「函館市で実施されてる取り組み」を理解する！**

- ・レクリエーションや講座、イベントを通して外国人住民と市民が交流し、国際理解を深める。  
例) イベント→「箱館五稜郭祭」や、函館港を舞台にした「函館港まつり」、そして「はこだてMOMI-Gフェスタ」など。
- ・姉妹都市ハリファックス市から贈られる巨大なクリスマスツリーの設置
- ・函館国際化の目標...「外国人観光客の誘致と外国人住民の受け入れを通じて、多文化共生社会を築くこと」  
→外国人向けの観光コンテンツの充実、外国人の地域社会の促進
- ・函館空港...姉妹都市紹介コーナー

**② 3 学年の実践**

3 学年生徒は、探究課題を設定する際に壁打ちピッチを実施した。壁打ちピッチとは、探究課題を設定する前に、その構想段階で学年団に所属する複数名の教員に内容を短時間でプレゼンテーションを実施することである。3 学年生徒は、生徒自ら壁打ちピッチ相手の教員を学年団内から 2 名選ぶことができ、課題設定に向けて複数教員と何度も対話する機会を設けた。生徒が作成した課題設定シート（図 4-1、4-2）に、興味関心のある課題に対する仮説や探究活動の結果予測、そして探究活動を通してどのような行動ができるのか、現段階での調査方法や具体的な活動内容も箇条書きにしてまとめたものを視覚資料として作成し、壁打ちピッチを実施した。教員と壁打ちをすることで問い自体が変わる生徒もいるため、多くの生徒は複数回にわたり教員と壁打ちピッチを実施した。

図 4-1 壁打ちピッチ時の発表資料（3 学年）

卒業研究 MY PROJECTテーマ設定シート ※2 学年の先生だれか 2 名にピッチプレゼンするときに使うよ！		2年 B 組 No.      名前：
テーマ設定シート	<b>ポイント</b> 赤・緑・青の課題明確化の部分から、マイプロテーマ名を考えよう！	
マイプロテーマ名	「お金の大切さと計画を立てることの重要性を小中学生に理解してもらう」	
キーワード	お金、大切さ、計画、重要性、金融教育	
課題解決策（仮説） 「〇〇によって」	「 お金を使う前に計画を立てること 」によって	
結果の予想 「△△になり」	「 限られた金額の中でどう使えばいいのか考えるようになったり今の自分または将来のために本当に必要かどうか考え、その人にとって正しい判断ができるように 」なり	
自分の想像する未来 「□□できるか」	「 将来を見通したお金の使い方が 」できる	
調査方法や具体的な活動 箇条書きで ※現時点の考えでOK	計画表のICT化 お金の大切さと計画を立てることの重要性を広める 全員が楽しめるような金融教育の仕方を考え、広める	
先生 1 人目【 佐々木 】先生 ※先生からのアドバイス書こう	先生 2 人目【 山下 】先生 ※先生からのアドバイス書こう	
結果予想が具体化させるといい	データがあるといい	

図 4-2 壁打ちピッチ時の発表資料（3 学年）

卒業研究 MY PROJECTテーマ設定シート ※2学年の先生だけが2名にピッチプレゼンするときに使うよ！		2年 A組 No.      名前：
テーマ設定シート	<b>ポイント</b> 赤・緑・青の課題明確化の部分を先に考えてから、マイプロテーマ名を考えよう！	
マイプロテーマ名	やる気が出ない理由とその解決策を考え、時間を有効に使えるようにする。	
キーワード	やる気、理由、解決策、他のこととの関係	
課題解決策（仮説） 「〇〇によって」	「(主に学生が) やる気が出ない理由や、環境や身体との関係を調べること」によって	
結果の予想 「△△になり」	「(主に学生が) やる気を出す方法を考えられるよう」になり	
自分の想像する未来 「□□できるか」	「(主に学生が) やる気が出ないという状態を解決し時間を有効に使えるように」できるか	
調査方法や具体的な活動 箇条書きで ※現時点の考えでOK	①インターネットや論文などで調べる。②やる気についてのアンケートを附属中の生徒にやってもらう。③その結果から何と関係があるか予想がついたら、その分野に詳しい人に話を聞く（心理学の人、脳や人の身体に詳しい人などになると思う）。できれば異なる分野の複数の人に話を聞きたい。④やる気についてわかったら、やる気を出す方法を学年の人にできれば試してもらおう。⑤やる気が出なければさらに調べ、他の方法を考える。⑥余裕があれば、年齢、地域、性別などによるやる気の違いについても調べる。	
先生1人目【 木村 】先生 ※先生からのアドバイス書こう	先生2人目【 有金 】先生 ※先生からのアドバイス書こう	
<ul style="list-style-type: none"> <li>やる気についての本（脳科学系が多い）などをたくさん読んで、可能ならその本を書いた人に話を聞ければ良い（zoomなどでも良い）。</li> <li>「〇〇をやってみる→ためた→たら□□」というような探究のサイクルを早く、何回もやると良い。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「やる気がある」の定義をはっきり示したほうが良い。</li> <li>「やる気がある」というのが良いことなのか考えるべき（やる気があっても結果が伴っていなかったらそれは良いことなのか）。</li> <li>アンケートのときに、条件や聞き方を工夫した方が良い（何に対してのやる気か、やる気の定義を示すなど）。</li> <li>自分の中のやる気と、他人から見えるやる気の違いも考えた方が良い。</li> </ul>

また、今年度より、校内の探究活動のデータベースとなるサイトを作成し、過去の先輩生徒の探究成果（卒業論文PDFデータ、発表資料PDFデータ）を参照することができるようにした。（図5）本校卒業生徒の探究活動で得た調査結果や成果と課題を、先行研究として次世代の生徒の探究活動に活かしていく目的もあり、アーカイブ化をすすめた。特に3学年では、卒業論文の作成段階で、どのように論文を書けば良いのかを先輩生徒の研究論文から参照する際に用いる生徒が多く見られた。

図 5 附属函館中学校探究公式サイト内3年「卒業研究」卒業生徒の発表資料掲載ページ



## (2) 社会で活躍する専門家から「問い」を見付ける

本校の探究活動は、生徒が実社会や実生活の中から問いを見出し、その解決に向けて取り組むことを重視している。特に、社会で活躍する専門家や地域の人々との対話は、生徒が新たな問いを発見し、既存の問いを深める上で重要な機会となっている。ここでは、各学年で実施した探究懇話会が生徒の探究活動ならびに考えや価値観にどのような変容をもたらしたのか、その懇話会終了後に生徒がどんな学びを感じ、生徒自身の中でどのような問いが生まれたかなどについて、懇話会終了時のアンケート内容から考察していく。

### ① 1学年 探究オリエンテーション「大学探究DAY」での探究懇話会と生徒の反応

1学年では「函館市の『まちの宝』を見付けよう」をテーマに、函館市の歴史、文化、自然、産業など、地域の様々な側面に触れる活動を展開する。具体的な活動例としては、地域を支える市民や観光施設の担当者へのインタビューを通じて、彼らの仕事にかける情熱や、地域貢献への思いに触れることで、生徒自身の地域に対する関心を深め、新たな疑問や探究の方向性を見出すきっかけとしている。この探究活動を進める前に、中学入学後の6月に北海道教育大学函館校にて「大学探究DAY」に取り組んだ。

今年度初めて実施した「大学探究DAY」は、中学校を入学し、中学校での探究活動を本格的に進めるにあたり、探究活動の目的や探究のおもしろさ、地域課題解決に向けたヒントや実践例を大学教員や大学生伴走サポーターから学ぶ「探究オリエンテーション」の場である。その中で、「函館でユニークな活躍をしている先輩たちの話を聞き、地域の課題に取り組む意味を考えてみましょう。」をテーマに、函館市内で活躍する北海道教育大学函館校在学中の学生や卒業生が講師として懇話会で登壇した。懇話会の中では、大学内で実施する地域課題解決に向けたプロジェクト活動や、大学卒業後も函館市に残り、地域の魅力を創造したり、地域の課題解決に事業者として取り組んだりした体験から、地域課題を学ぶ理由や新たな地域の魅力を1学年生徒に共有した。(図6-1、6-2)

図6-1 「大学探究DAY」での探究懇話会風景

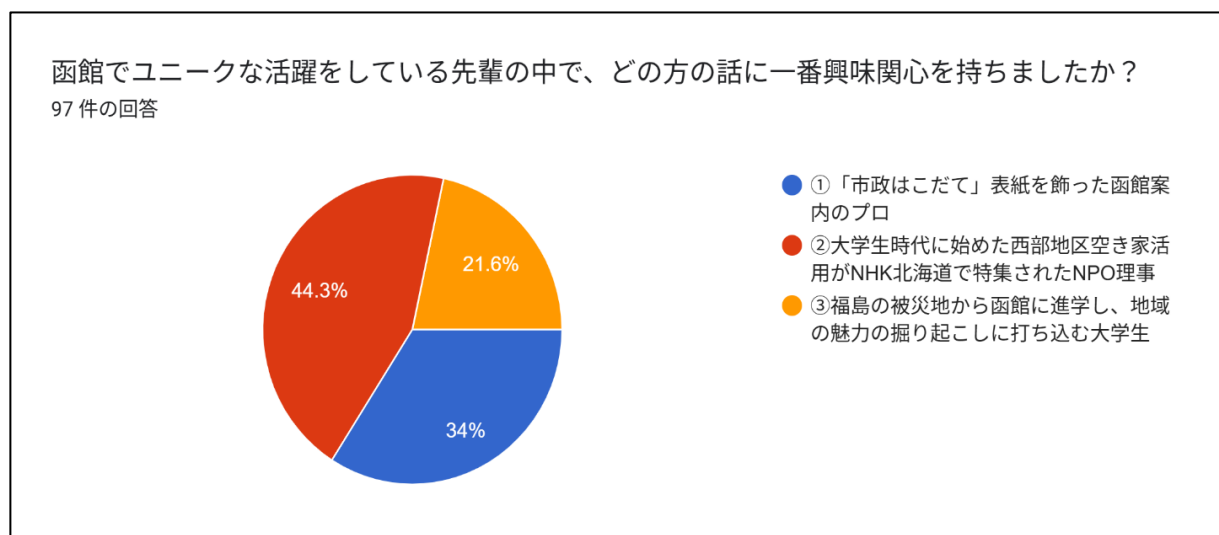


図 6-2 「大学探究 DAY」での探究懇話会風景



「大学探究DAY」の取組は探究懇話会だけでなく、大学構内の施設見学等も含むプログラムであったが、この探究懇話会での学びについて感想を回答する生徒が多く見受けられた。(図7、表3)

図 7 生徒アンケート回答内容より (懇話会内容の興味関心について)



回答内容の中では、3名の登壇者による函館市内での活躍への関心はもちろん、函館市以外の地域から大学入学を機に移住した背景にも着目し、地域で活躍する理由に対する尊敬の念を持った生徒回答が多く見られた。また、探究活動そのものに関する概念を生徒個人で価値付ける回答や、今後1学年生徒が取り組む「函館市の宝」と結び付けて生徒自身なりの問いをもったことが分かる回答も見られた。

表3 大学探究DAYの懇話会内容に関する生徒アンケートの回答内容（自由記述による回答）

<p>【大学探究DAYの振り返りアンケートより】</p> <p>質問「函館で活躍している方の話で、学んだことや考えたことを簡単に記述してください。」</p> <p>回答形式：自由記述</p> <p>回答方法：Google Formsによるアンケート調査</p>
<p>（以下、生徒の記述回答抜粋内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人力車の林さんが言っていた函館は「若者がさる街」だからこそ「チャンスを掴む事ができるかも」というのが心に残っています。今はなにもないと言ってはなんですが、なにもない函館を変えるというのはすごく楽しいんじゃないかなって思えました。</li> <li>・街の宝は「ひと」でもあること。</li> <li>・「いきいき生きるために、自分で作る」という言葉がとても心に残った。いいところが少ないから違うところへ行く、のではなく、数少ないいいところを活かして、精一杯のことをする、という考を発表して下さった全員が持っている気がした。2年生の探究活動のときに大切にしたいと思った。</li> <li>・探究活動をすることで、今までわからなかったことなどがわかり、そのまちについて詳しく知ることができるということを学んだ。地元が好きじゃなくても、地元のことについて考えてみることで、新しいことを知ることができ、地元が好きになるということ。自分が行ってみたいまちを調べたくても、一旦今いるこのまちについて調べて、調べたことを活かすことが大切。</li> <li>・最初から、この函館を大好きでいなくてもいいということ。</li> <li>・地元は函館じゃなくても函館で活動してくれているという事実に感動しました。</li> <li>・やはり一度は函館を出ることで更に函館の良さがわかることを知った。</li> <li>・探究は何かを良くするためにやったり、何かを好きになるきっかけになることがわかった。</li> </ul>

## ② 2学年グループ探究活動B「函館市の未来を考えよう」での探究懇話会と生徒の反応

2学年の探究懇話会では、「函館市の諸課題とその解決について～函館市がよりよいまちになるためには？～」をテーマに、函館市の担当課職員2名が登壇した。担当者からは、函館市の現状や各産業や分野における課題点や、次期総合計画（基本構想）で目指す函館市のまちづくり構想に関して話していただいた。市政担当者の講演を課題設定前に設けることで、生徒間で意見交流した課題意識と、市政側の課題意識との共通点や差異を見付けることができた。

懇話会後の振り返りアンケートを2学年生徒対象に実施した。「函館市のまちづくりでは、『市民の幸福度を上げる』ことが大切とされています。函館市民の幸福度を上げるためには、どのようなアクションをすることが必要でしょうか？考えたことを簡潔に回答してください。」という質問項目の回答内容より、函館市が目標とするまちづくりに対して理解をするとともに、生徒自身の地域課題に対する興味関心の程度をそれぞれが考える機会につながった。（表4）

表4 2学年探究懇話会終了後の振り返りアンケート回答内容（自由記述による回答）

【2学年探究懇話会の振り返りアンケートより】

質問「函館市のまちづくりでは、「市民の幸福度を上げる」ことが大切とされています。函館市民の幸福度を上げるためには、どのようなアクションをすることが必要でしょうか？考えたことを簡潔に回答してください。」

回答形式：自由記述

回答方法：Google Formsによるアンケート調査

（以下、生徒の記述解答抜粋内容）

- ・函館の魅力をもっと全国に発信していくなどの工夫をしていくことで、私たち函館市民にとって函館市がよりよいまちになっていけると思った。
- ・幸福度が上がる＝市民が求めているまち だと思うので、ゴミが全然落ちていないきれいなまちになるためゴミ拾いをするとかだと思えます。
- ・まずは市民みんなの意見をできるだけ聞いて、難しいかもしれないけど意見の中にある不満などを解消していけば幸福度は上がっていくんじゃないかと思う。
- ・今は結構観光者向けの施設が多い気がするので、もっと地元の人向けの施設や取り組みを増やすことが必要だと思いました。
- ・今市民が一番どうしてほしいのかを若者から高齢者まで幅広い年代の人から聞き実行していくことが良いと思えます。
- ・観光地だけでなく他の部分でも思うことがあるけど、ゴミが落ちていたり海にゴミを捨てる人などが増えていて、景観を損なっていると思うことがよくあった。だから、地域の中だったりボランティアなどでもっと活動を盛んにしたほうが良いと思った。他には、商業施設でエレベーターを車椅子の人に優先しない場面がよくあったため、その部分を、店員さんと協力して譲ったりなどの活動を増やしたい。
- ・観光客を増やすだけでなく、定住者を増やすためのアクションが必要だと思えます。
- ・自分は、医療、子育て支援に関わる活動などが函館市には足りていないと思うため、「市民の幸福度を上げる」ためにはそれに関する新しい政策が必要だと思った。
- ・観光の面では人を引き付ける要素が多くあり、その中にある商業施設や観光地のお陰で市民が暮らしていく基盤はすでにあるので、函館市に住む市民の幸福度を上げるためには、個人的に注目している移動手段やインフラ整備を強化するのが大切だと思えます。
- ・年々少子高齢化が進んでいる函館市で大きな災害があっても市民の私達が安全に暮らせることが笑顔で幸せに暮らせるまちになるためのものだと私は考えます。
- ・「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」については、特に問題はないと思えます。しかし、観光客が多すぎても、「安全・安心に暮らせるまち」という点があやうくなってしまうので、バランスが大事だと思えます。また、「安全・安心に暮らせるまち」や「いつまでも住み続けたいまち」については、まだ私が詳しく分かっている部分は少ないので、これからの学習で調べることができれば、と思えます。

### ③ 3 学年 卒業研究での実践内容より

3 学年では「卒業研究」として、生徒個人が自ら設定したテーマに基づき、より高度な探究活動を行う。この「卒業研究」では、生徒それぞれの興味関心を探究課題に設定し、日常生活や地域社会の中で発見した課題解決に向けて探究活動を個人で進める。探究活動の最終成果として、生徒は個人で卒業論文を執筆し、12 月の成果発表会で卒業論文の発表をする。1・2 学年までのグループ探究活動とは違い、個人での探究活動になるため、「課題設定」の場面からその進捗は生徒によって多様である。

卒業研究の研究テーマを設定する「課題設定」の段階では、本校卒業生の外部大学教員に登壇いただいた。現在研究されている内容についてはもちろん、中学時代の学びがどのように現在のキャリアに繋がっているか、卒業生だから伝えられるエピソードも含めて懇話会で講演をしていただいた。

探究懇話会を実施したのは現 3 年生が 2 年生 11 月末時期であり、ちょうど探究活動のテーマや方向性を自分なりに見付け、本格的に個人で探究活動を進める時期でもあった。そのため、懇話会全体の興味関心度も高く、懇話会終了後の事後アンケート（Google Forms で実施）によると、懇話会全体の満足度は 5 段階中平均で 4.56 と高評価であった。（図 8）

また、「本日の探究懇話会を通じて『研究のおもしろさ』について考えたことを記入してください。」という質問の回答内容からは、「答えのないことを探究する楽しさへの理解」や「自分の興味関心や好きなことを研究するおもしろさ」に関する記述が多く見られた。また、生徒それぞれが設定した研究テーマに対する探究意欲も垣間見られた。懇話会終了後、「メンタルケアを身近に～音楽とアートで心の健康を支える～」を研究テーマとした生徒は、懇話会のテーマや内容と生徒自身の研究テーマとの関連性を強く感じ、修学旅行時に再度対面インタビュー調査をお願いできないか生徒自ら挨拶に向かった。この懇話会での出会いから、3 学年 4 月の修学旅行時には講師が所属する大学を訪問し、再会を果たすとともに、対面インタビュー調査にご協力いただいた。講師からは、生徒自身の研究に関する専門的な知見を伺うのはもちろん、生徒自身の卒業研究についての助言もいただくことができた。

このように、探究懇話会の場で専門家や研究者との出会いによって、生徒それぞれの探究活動の方向性や次の活動の動機付けにつながる事が分かった。（表 5）

図 8 3 学年探究懇話会の事後アンケートより



表5 3学年探究懇話会終了後の振り返りアンケート回答内容（自由記述による回答）

【3学年探究懇話会の振り返りアンケートより】

質問「本日の探究懇話会を通じて「研究のおもしろさ」について考えたことを記入してください。」

回答形式：自由記述

回答方法：Google Formsによるアンケート調査

（以下、生徒の記述回答抜粋内容）

- ・研究は誰も解明していないことなどを自分で探究できる楽しさがあるからオモシロイと思った。
- ・「答えがないこと」について調べることに興味をそそられました。自分自身答えが一つではない国語が好きなので、答えのないことについて研究することも楽しそうだと思います。
- ・「自分の好きなこと、得なことをとことん掘り下げて探求する探究心を磨くこと。型にはまらない考え方で物事を考えること。」考え抜いて絶望して試行錯誤する面白さを忘れないようにしたいと思いました。
- ・正解があるか分からないことに対してそれを追求するということの面白さが研究にはあると思った。また、自分には、数学について追求していきたいという思いもあるため、この自分の興味をこれからも深めていきたいと思った。
- ・研究の面白さは、自分が知らなかったこと、まだ世に出ていないことを探究して、自分の答えを出すということだと聞いて、まだあまり行われていない、いろんな人のためになる探求をしていきたいと思いました。
- ・自分の興味のあることについて、色々なことを調べていくことに興味が湧いた。自分も今回の探究のテーマである「海洋ごみ」について、いろいろな手段を使ってどんどん深堀りしていきたいと感じた。
- ・日常生活にある少しの疑問だったり、衝撃を受けたことを突き詰めていくと、自分がそれまで知らなかったことを知れるという点が研究のおもしろさなのかなと思いました。その突き詰めていくことを職業とせずとも、気になったことがあれば積極的に調べていきたいです。
- ・中学生まで自分がやりたいことが決まっても、高校生になってからでもやりたいことが判れば、その時からでも遅くなく始められるから。
- ・自分がやりたいことに集中して取り組めたり、それを自分の文でまとめて本として出せるのは面白いと思った。自分が新しい発見をするのはすごく楽しそうだと思う。

ある生徒は、「プレゼン成功への近道：デザインのガイドライン」を研究テーマに設定した。この生徒は、3年生4月の修学旅行のFWでは、外資系IT企業を訪れ社員の方に対面インタビュー調査を実施した。この対面インタビュー調査では、ビジネス界でのプレゼンテーションの方法やその伝え方、プレゼンテーションデザインの専門的な考え方や情報発信の工夫について学び、自身の探究活動に新たな方向性を見出した。

生徒が設定した問いに対して専門的な考えを学ぶために、3年6月のフィールドワークでは、オンライン会議システムを用いてプレゼンテーションの技術に関する書籍の著書でもある大学教授にインタビュー調査を実施した。そのインタビュー調査では、大学教授から生徒の探究活動そのものの問いについて再考するための問いを提供いただいた。この生徒は、生徒自身がかねてから活動を通して考えていた

問いそのものを再考する方が良いという助言をいただいた後に、再度研究テーマの再考をすることに対して自ら検討し、研究テーマの変更について悩み続けていた。その際に、探究連携担当教員に生徒は何度も壁打ちをし、探究活動の方向性を見出そうともがいていた。その壁打ち時のやりとりが、下記の内容である。(表6)

表6 3年生生徒と探究連携担当の教員による「壁打ち」の記録

生徒：(専門家からの助言の振り返り) 子供にはわかりやすい大きい文字の方がいいみたいな。仮説をたてて始めるじゃないですか？だけど、実際は言葉を大切にやっての方がいいよってというのが探究。それが専門家の先生が送っていただいたデータの中には、それこそ、その一、「概念が探究なんだよ。概念を深めること」がって書いてあったんですよ。

教員：なるほどね。探究の方法があるんだけど、「デザインとは？」を極める、その(プレゼンの中で伝えたい)言葉やメッセージを極める。そのためにいろんな、例えば事例とかビジネス界でのプレゼン内容とか、あとは学校教育の中でのプレゼンの内容とか。そして1対1で対面でのプレゼンの内容、1対大勢とか。いろんなプレゼン事例のデータをいっぱい持ってきてさ、分類したりして。それで「プレゼンとはこうあるべき」って新しい概念を自分で作る、みたいな。

生徒：じゃあ、これ(自分のテーマ)も似ている感じですね？

教員：うんうん。

生徒：(プレゼンとは？を) 究めたら、新しいプレゼンとは、を見出せる、みたいな。

教員：そうそう。

生徒：えーと、じゃあ、(自分がテーマとして設定した内容自体が) 大きすぎるのか。規模が。

教員：うん。そうなのかもね。今さ、「(自分がテーマとして設定した内容自体が) 大きすぎる」って言ってたけど、どこに(そのテーマの) 大きさを感じた？今までの自分の探究活動振り返ってみて、どこだろうね？

生徒：そもそも「デザイン」っていう定義をとっても大きな枠で考えていたところかな。(今回大学教授の先生からいただいた助言では、)「文字だけ」とか範囲を狭めて、そのプレゼンテーションの中の対象を限定しているから。

教員：うんうん。

生徒：(対象を限定して探究を進めることの方が) より深く探究できるのかなって。

教員：うーん。そうね。確かにさ、文字だけで伝えるシンプルなスライドってかっこいいと私は最近思う。かなり、シンプルじゃん。商品とかを開発するときの思考ってさ、「足し算の思考」じゃなくて「引き算の思考」で考えたりしてるよね。例えば、この水筒(教員が持っている水筒を持って)を見てみて。商品を販売するまでにはいろんな商品案があって、いろんな柄がついていたり、取っ手の持ち手が違ったりしていたと思うんだ。でも、この形、とてもシンプルで使いやすさにこだわっているように見えるよね。世の中に流通している商品でも多くの人に好まれるデザインって、まさに「引き算の思考」で考えているんじゃないかな？プレゼンテーションのデザインも同じで、「伝える」とか「届ける」という観点でこの思考、共通しているんじゃない？

生徒：確かに。そういう観点で探究をやってみる方が良くて、〇〇先生（オンラインインタビュー調査の協力者）に教えていただいたんです。〇〇先生には、『『フォント』とか『文字の向き』とか、『文字の大きさ』とかに絞って探究を進めたらどうですか？』って言われました。深い考えで探究を進めていく方向にしようかな。もう一回自分でも深く考えてみます。

教員：そうだね。すごく良い機会だと思うから。お礼メールは確かに大事なんだけどさ。助言いただいたテーマの再考について自分でも考えて、学校の先生方とも壁打ちして、さらにまた「自分なりに」テーマを考えましたっていう報告をすることの方が大事だね。

生徒：ちなみに、今研究テーマを変えても、論文執筆は間に合いますか？

教員：大丈夫だよ。こんなに真剣に〇〇さんの探究についてとても真剣に考えていただいて、参考資料も送っていただけると、本当に感謝すべきことだしね。

生徒：そうですね。

教員：方向性を変えるということは、それまでの調査や触れてきたことの中でその考えに行き着き、今日ここでこうして悩んでいることはまさに「探究」ど真ん中だね。考え詰まっちゃったら、考えたアイデアを一回A Iと壁打ちしたら、考えも整理できると思うよ。

生徒：うん、良いですね。ありがとうございます！

この生徒は、「デザイン」というテーマが漠然として大き過ぎることに気が付き始めていた。専門家である大学教授からは、「文字の大きさや向き、フォントといった要素に絞ることで、より深く探究できるのではないか」と助言を受けたことを振り返りながら、対象を限定する方向へと考えを進めていた。

壁打ち相手の探究連携担当の教員はそれを受け、「プレゼンテーションとは何か」という問いを例に挙げ、様々な事例を比較・分類しながら新たな概念を構築する方法を示した。また、商品開発における「引き算の思考」を例にとり、シンプルに削ぎ落としていく姿勢がプレゼンテーションにも共通していることを説明した。これにより生徒は、自身の探究テーマにおいても「対象を絞り、概念を深める」方向性を具体的にイメージできるようになった。

さらに、生徒が「テーマを変えても論文執筆に間に合うのか」と不安を口にした際、教員は「方向性を変えることも探究の一部」であり、「悩み、考え続けていること自体が探究の真っ只中である」と励ました。最後に、壁打ちの相手としてA Iを活用する方法も提案し、生徒は自分の考えをさらに練り直してみる意欲を示した。

この壁打ちは、生徒自身が設定した研究テーマそのものの問いの規模を調整する確認の場面として捉えることができる。生徒が「テーマが大きすぎる」と自覚できたことは、生徒自身の探究を深化させる転機となった。また、壁打ち相手である教員が「どこに大きさを感じたのか」と問い返すことで、メタ認知的な振り返りを促していた。また、テーマ変更への不安に対して、「それも探究である」と肯定的に応じたことで、生徒は安心して次の一步を踏み出すことができた。また、A Iを壁打ちの相手とする提案は、生徒の探究活動における思考の整理を助け、探究活動を一人で抱え込まずに継続できる仕掛けとして有効である。これらの活動は、生徒が専門分野の最前線に触れることで、自身の問いを多角的かつ深いレベルで再構築する契機となっていた。

### (3) 生徒の探究活動を地域社会につなげる

本校の探究活動は、各学年において、それぞれ生徒個人や生徒グループが設定した探究活動のテーマをもとに、それぞれ生徒が地域社会の一員として課題解決に貢献する実践的な学びを目指している。特にその学びは、1・2学年の探究活動で重きを置いている。1学年は8月以降に「函館市の『まちの宝』を見付けよう」をテーマにグループ探究活動Aを開始するため、2学年と3学年の事例を紹介したい。

#### ① 2学年の実践

函館市のアクションプランを各生徒グループで作成するために、それぞれのグループで課題設定した上で、7月中旬に函館市でのFWを実施した。FWはそのグループによって活動内容が異なる。(表7)

表7 2学年函館市フィールドワーク時の活動内容について

FW方法 (調査方法)	情報収集の目的
インタビュー調査 (対面 or オンライン)	自分たちが考えるアクションプランについて、専門家や先進的な活動をしている企業・市民の方より専門的な知見、アドバイスをいただく。
街頭インタビュー調査	まちの中で市民の声を無作為に聞く。時間帯や場所によっては、回答する年齢層や人数が偏ってしまう。(データの信頼度でいうと、量的データは回収しにくい)
実験・観察・調理実習	自分たちが考える課題解決に向けた行動もしくは商品・サービスの開発等を目的として実際にイメージする商品を開発してみる。 実験・観察は理科教員と、調理実習は家庭科教員と要相談。
ワークショップ実施 (イベント実施)	課題解決に向けて自分たちで考案したイベントやワークショップを観光施設・教育機関等で実際にやってみる。参加者の意見をその場でヒアリングしたり、イベント等終了後の参加者アンケート調査等でその効果等を検証したりする。
アンケート調査 (オンライン回収ならば Google Forms)	知りたいことを明確にして、自分たちの探究活動やアクションプラン実現に向けた対象者の意識や認知度などを調査する。

FW実施日は1時間目から4時間目までとし、その時間帯であれば活動計画を基にどのような調査活動を実施してもよく、各グループの活動裁量を生徒に任せている。FWはあくまでも「情報収集」を目的としている。インターネットや文献での先行事例調査等を事前に実施した上で、地域課題の現状はもちろん、その課題解決に向けて取り組んでいる専門家に直接対面で取り組み内容を学ぶ機会となる。また、グループのテーマによってはFWの実施時に函館市内の公共施設前や大型商業施設前で不特定多数の市民を対象とした街頭インタビュー調査を実施するグループもいた。(図9)

図9 2学年7月FWの調査方法と対象リスト

グループ名	伴走教員	テーマ名	調査方法	FW先名称(企業名など)	FW調査時間
①観光・コンベンションの振興	A 佐々木T	遊んでほっぴー息、親子で楽しむ場所づくり ～函館市観光客の長期滞在とリピーターの獲得～	インタビュー調査	函館市役所観光部	7/16(水) 10:00~10:20
①観光・コンベンションの振興	B 佐々木T	誰でも(観光客・地元の人) できるスポーツを作ろう!	イベント開催	附風幼稚園	7/23(水)8:30-10:00
①観光・コンベンションの振興	C 佐々木T	"残ったウマイ"即席販売用アイスツールの開発 ～地元産品を味わう、彩り豊かな朝の一杯～	商品開発	センチュリーマリナー	7/16(水)11:00~11:30
①観光・コンベンションの振興	D 佐々木T	牛乳の廃棄量を減らすために牛乳の魅力や北海道全体に伝えよう! ～牛 New recipe開発の旅～	商品開発	北海道乳業株式会社	7/16(水) 10:00-11:00
①観光・コンベンションの振興	E 佐々木T	「函館の恋を応援!」～カップルの聖地を作り上げる～	商品開発	アンジェリックボヤージュ	7/16(水)
②農林水産業の振興	菊地T	農業の活性化とブランド化のために	インタビュー調査	JAはこだて	7/16(水) 10:00~11:00
③商工業の振興	山口T	高齢者に適した加工品の開発 ～高齢者について考え、経路の改善を促す～	オンラインインタビュー	野村證券	7/16(水) 9:00-9:30
④子ども・子育て支援の充実	須藤T	幼稚園・保育園の観察体験をしてみよう!～子育ての大変さを知る～	イベント開催	附風幼稚園	7/23(水)8:30-10:00
⑤学校教育・高等教育の充実	須藤T	問題を深掘り+まちの改善で、中高生の探究を充実 ～函館市探究改善	オンラインインタビュー	函館市立港中学校	7/16(水) 9:00~12:00
⑦生きがいづくり・健康づくりの推進	A 須藤T	函館市民が健康になれる食を開発しよう! ～食で函館市を豊かにする～	インタビュー調査	JA函館亀田農業協同組合 附風函館小学校	農産7/16(水) 10:00~10:20 附風小 7/16(水) 13:30~
⑦生きがいづくり・健康づくりの推進	B 須藤T	スポーツと遊具をスーパーの商品でつなげよう ～スポーツと遊具と商品開発?～	インタビュー調査	アークス千代台店	7/16
⑦生きがいづくり・健康づくりの推進	C 須藤T	新しい世代が活動するための楽しいスポーツを作ろう!	インタビュー調査	北海道教育大学附風函館幼稚園	未定
⑧安全に暮らせる市民生活の確保	須藤T	ゴミをリサイクルして道路をしよう! ～函館市の道路をきれいに～	インタビュー調査	①函館市役所道路管理課	7/16 10:00~11:25
⑩魅力ある景観・町並み・市街地の形成	菊地T	「防たごい」を活用して町を清潔に ～景観を美しく、美しく、守るために～	インタビュー調査	函館市役所地域デジタル課	7/16(水) 10:00~10:30
⑪文化芸術の振興と歴史の継承	菊地T	SNSを活用して函館市に地域の魅力を発信! ～地域の絆と誇りを再認識させる～	動画発表	函館市地域交流まちづくりセンター	7/16(金) 10:00~10:30
⑫国際化と地域間交流の推進	佐々木T	国際市の国際交流を盛り上げる ～外国の人たちと世界共通のゲームをやろう!～	インタビュー調査	函館市役所国際地域・交流課	7/16(水) 10:00-10:30
⑬陸・海・空の交通網の充実	A 山口T	まちなかの案内を快適に! ～函館に降り立った旅人を助けよう～	インタビュー調査	函館空港	7/16(水) 9:20-11:00
⑬陸・海・空の交通網の充実	B 山口T	港前から到着点に ～魅力ある駅にしよう～	商品開発	調理実習	7/16(水) 9:30-12:00
⑭公共交通の再編	A 山口T	新しいバス車両の開発も市民意識大改革 ～市民の利用者を促すために～	インタビュー調査	函館バス バス事業部車両課	7/16(水) 10:00-11:30
⑭公共交通の再編	B 山口T	バスに野村證券を乗せよう ～いつものバスで、乗る～	インタビュー調査	函館バス株式会社	7/16(水) 10:00~11:30?
⑮環境保全の推進	A 菊地T	ゴミを活用して新たなものを作ろう! ～函館のゴミを減らすために～	インタビュー調査	函館市環境部環境推進課	7月16日(水)10:00~11:30
⑮環境保全の推進	B 菊地T	ゴミをキラキラなアクセサリーにして輝きを取り戻そう～ゴミの ない函館市を目指して～	商品開発	大森浜、啄木小公園	7月16日(水)10:00~11:00

「牛乳の廃棄量を減らすために牛乳の魅力や北海道全体に伝えよう!!～牛 New recipe 開発の旅～」のグループは、函館市内のFWで乳製品製造企業を訪問し、牛乳の生産プロセスや消費や廃棄についての課題について調査を実施した。その調査時には、生徒開発した牛乳消費を促す新たなレシピについて企業の酪農部担当者と商品開発担当者へ発表する機会も得ることができた。彼らのアクションプランの構想では、考案したレシピを用いてインタビュー相手である企業と連携し商品化を目指すことである。このアクションプランの実現に向けて、企業担当者から商品化に向けた助言や牛乳製造過程で発生する廃棄しなければいけない材料等の活用についても示唆いただいた。調査活動終了後、生徒グループのメンバーで再度考案したレシピについて吟味するとともに、夏季休業中に家庭で考案したレシピを使って実際に試作品を調理するという行動をした。今後の探究活動では、札幌市内の宿泊研修では牛乳廃棄削減の取組を実施する企業へのインタビュー調査を考えている。また、札幌市内の宿泊研修でのインタビュー調査で得る知見を活かして、レシピ案を再考し、試作品の調理を実施するとともに、企業担当者に試作品を提供する予定である。

「遊んでほっと一息、親子で楽しむ場所づくり～函館市観光客の長期滞在とリピーターの獲得～」のグループは、函館市観光部観光振興課担当者に対面インタビュー調査を実施し、函館市で過去に実施した観光スタンプラリーの成果と課題について深く学んだ後、テーマの「ほっと一息」という部分と観光客の長期滞在・リピーター獲得の関連性を再考し、より効果的な活動計画を模索している。それに対して教員は、生徒が議論に行き詰まった際に、「なぜそう考えたのか」といった問いかけや、異なる視点からの提案を行うことで、生徒の思考を促進した。

『函クエGO!』を活用してまちを清潔に～景観を楽しく・美しく・守るために～」のグループは、函館市担当課職員へ対面インタビュー調査を実施し、ゴミ問題解決にゲーム要素を問入れる提案を検討しており、地域への具体的な貢献を目指している。

函館市内でのFWを経て、札幌市内での宿泊研修におけるFWでは、他都市や他地域での先進的な取組を学ぶことはもちろん、生徒グループが考えるアクションプランの有効性を支えるためにも重要である。

校外でのFWは、インタビュー調査におけるアポイントメント取得や調査協力者との連絡調整も含めて、生徒自らがそれぞれに成長を実感できる学習機会となる。それぞれの探究活動を通して、地域の魅力や課題の現状を理解すると同時に、地域社会で活躍する専門家や企業担当者との出会いを通じて、「自ら社会に関わり参画しようとする意志」や、「社会を創造する主体としての自覚」が芽生えることが期待できる。

## ② 3学年の実践

3学年生徒は、修学旅行のFWを実施後、校外でのインタビュー調査を実施したりオンラインでインタビュー調査を実施したり、生徒個人でのFWを設定した。実施する目的は、2学年生徒のFW調査と同じく「情報収集」を目的としている。しかし、2学年生徒の探究活動進捗と違うのは、4月段階で一度専門家や先進的な取組事例の調査を東京都内で実施していることであり、そこで知識を得るだけでなく、その調査をきっかけとして生まれた問いに対して、再度情報を収集する機会があるということだ。

3年生の活動は、生徒の設定したテーマによって調査活動も様々である。修学旅行の自主研修も含めて卒業研究のカリキュラム内には3度FWの機会があり、テーマに沿って必要な知識を先進的な取組を実施する企業や行政担当者から教えていただいたり、生徒の考えた仮説や結論に沿って専門家から助言をいただいたりすることができた。3回目のFWになると、これまでの取組をただの「知識」で終わらせずに、自分の住んでいる地域社会に還元しようとして行動したり、その取組から学んだことを他者へ伝える活動に挑戦したりする生徒も複数名いた。これは、探究活動で学んだことの検証という目的では「情報収集」の場面でもあるが、同時にその時点まで取り組んできたことの「まとめ・表現」の場面と捉えることもできる。

2度実施したFWの中では、単に専門家や先進的な取組を実施している企業へのインタビュー調査をするだけでなく、自ら探究活動で学んできた取組を他者へ伝えその効果検証を実証する活動に取り組んだ生徒もいた。

一人は、生徒自身の興味関心から設定した「ハチによる児童の被害を減らす」という研究テーマで、附属函館小学校3年生25名を対象に授業を実施した。(図10) 授業の中では、修学旅行後に実施した小

児救急看護認定看護師へのオンラインインタビュー調査を通じて学んだ「子供に伝える効果的な手法」を活用し、生徒自ら作成した授業用スライド資料を見せ、クイズも交えながら「ハチに対する正しい対処法の授業」を実施した。附属小学校での授業終了後には、「授業をつくるためには小学生の反応を予想したうえで準備をするのは難しかった。また、授業や授業後の小学生へのアンケートで、小学生にはどれくらい知識があるのかも学びました。」と振り返った。

もう一人の生徒は、生徒自身の悩みごとから設定した「好き嫌いをなくそう～4歳から8歳のお菓子作り体験！食育プログラムの提示～」という研究テーマで探究活動に取り組んできた。FWでは心身健康科学の専門家である短期大学教員に対面インタビュー調査を実施し、「子供が好き嫌いをする理由や栄養バランスが偏ったときに起きる変化とその対策方法」を学び、その学びを活かして実際に児童対象に食育に関する授業を実施した。実施日は上記の生徒の取組と同時期であり、生徒自らがこれまでの探究活動で取り組んできた内容や取組から得た知識を、児童が楽しくそして理解しやすいように工夫を凝らし、リハーサルを何度も重ねて附属小学校3年生25名対象に授業を実施した。授業内では、「にがてな食べものを食べやすくするにはどうすればいいのでしょうか？」という問いを児童に聞き、それぞれの児童が発言する内容にも丁寧に反応し、児童一人ひとりとの対話を大切に授業を実施した。授業実施後は「話した内容をしっかりと理解してもらうことができ、児童の皆さんの感想を見て苦手な食べ物に対する意識が変わったことを理解することができました。」と振り返った。(図11)

図10 3学年生徒の小学校授業「ハチによる児童の被害を減らす」の風景（7月15日実施）



図 11 3 学年生徒の小学校授業「好き嫌いをなくそう」授業の風景（7 月 15 日実施）



上記 2 名の生徒の校外における FW は、表 7 における「ワークショップ実施（イベント実施）」に当てはまる。それぞれの探究活動で収集した情報やデータを活用し、実社会の中で生徒それぞれの選択した方法で他者に成果を伝える場である。生徒の振り返りでは、授業で実証した結果からわかることの中に新たな視点を見付けている。この新たな視点が、生徒それぞれの探究活動に対する「新たな価値の創造」になっていることが発見できた。

生徒 2 名によるこの活動では、自ら地域や連携先に働きかけて行動を起こすことで、実社会における探究活動成果の有効検証ができることがわかった。参加者である小学校生徒の意見をその場でヒアリングしたり、生徒アンケート調査等で授業の理解度を生徒自らの行動で確認したりすることができる。この活動からは、「自ら社会に関わり参画しようとする意志」はもちろん、授業実施者という立場から「社会を創造する主体としての自覚」が醸成される効果があることが分かった。

## V 成果と課題

本研究を通して、その成果と課題を明確にするために、グループないし個人での探究活動に現時点で取り組んでいる 2 学年全生徒ならびに 3 学年全生徒を対象に、活動開始時期から現在に至るまでの取り組みにおける自己評価、そして活動の中で感じた疑問や課題を明確にする目的で、アンケート調査を実施した。

アンケート調査の回答結果より、生徒個人ないし生徒グループにおける探究活動の多様な成果と、本校 3 年間の探究活動サイクルや探究活動内容そのものに関する課題が明らかになり、次年度以降の探究年間計画ならびに教育課程の編成に向けた生徒の声が明確になった。

## (1) 体験によって変化する生徒の問い

### ① 地域課題の解決に向けた「問い」(2学年「函館市の未来を考えよう」)

地域課題の解決を目指した2学年のグループ探究活動では、多くの生徒が函館市の地域課題解決への興味を持ち、FWでの情報収集を通じて課題への理解を深めている。

FW後も、多くのグループは当初設定したテーマを変更する必要はないと感じており、これはFWで得た情報がテーマに沿ったものであったり、新たな解決策の可能性を見出したりしたためである。一方で、テーマの難しさや、FWで得た情報とテーマとの間にずれが生じたことから、テーマの変更や再検討を検討するグループも一部見受けられた。このことは、探究が単線的なプロセスではなく、新たな情報や経験によって問いが柔軟に変化し得ることを示唆している。

### ② 生徒個人の興味関心から始まる「問い」(3学年「卒業研究」)

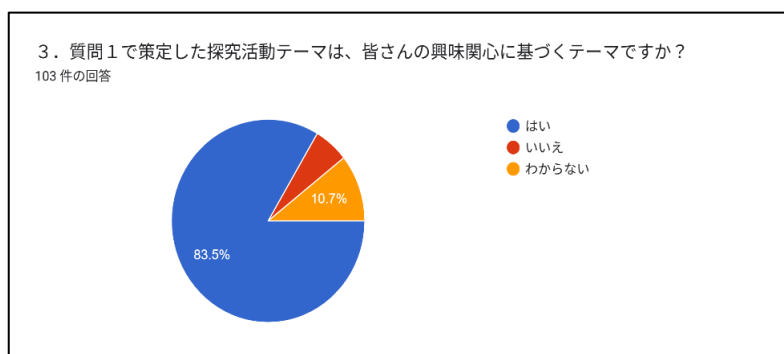
3学年の卒業研究では、生徒の多くが自身の興味関心に基づいてテーマを設定しており、活動への高い意欲が見られた。FWを通じて、多くの生徒がテーマを変更する必要はないと判断し、新たな知見や課題解決のヒントを獲得できたことを成果として挙げている。

一方で、「論文の文字数が達成できるか不安」「まとめ方がわからない」といった論文作成に関する不安や、「一人で活動することによる孤独感や視点の偏り」を課題として挙げている生徒も多く、個別最適な学びを深化させる上でのサポートの必要性が示唆された。

### ③ 学年ごとの探究活動テーマにおける生徒の活動意欲の差異

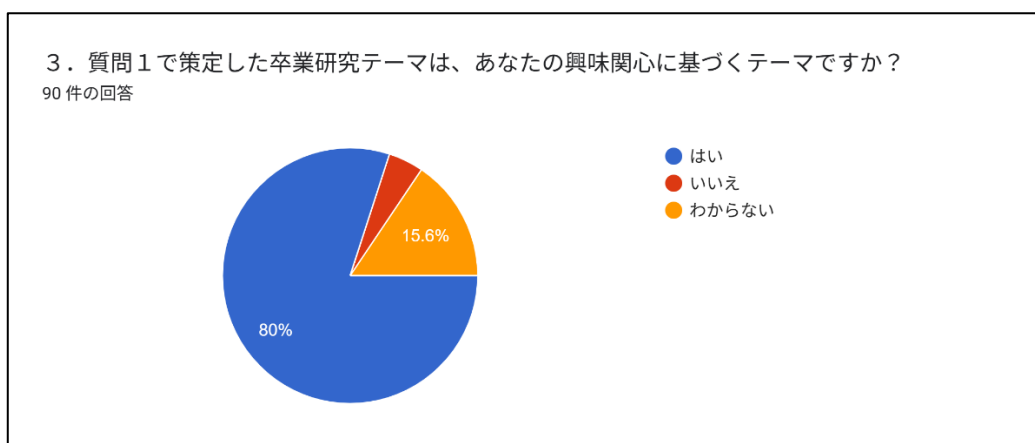
2学年のグループ探究では、回答生徒全体の8割以上は「興味関心に基づくテーマである」と回答している一方、一部の生徒が「あまり興味がない」「授業に参加できていなかった」と回答しており、グループメンバー間の興味関心や活動意欲に差異が見られる場合があった。「いいえ」や「わからない」と回答した生徒の理由記述を見ると、「函館市の地域課題も未だすべて知りきっていないため」や「人口減少や税金についてなどの政治的な地域課題はあまり興味をもてないけど、観光やイカがとれないなど少しでも身近なものだと興味をもちます。」というように、地域課題そのものが生徒にとっては身近ではないので、関心から離れたテーマ設定になってしまったことが分かった。さらに、グループで話し合い活動テーマを設定することから、話し合いの方法やグループ設定そのものへの課題が見られた。(図12)

図12 2学年 R7「総合的な学習の時間」探究活動アンケート内容より



3 学年の個人探究では、回答生徒全体の 8 割が「自分の興味関心に基づいてテーマを設定できる」と回答した。一方で、「いいえ」や「わからない」と回答した生徒は、「自分の興味関心ではなく、社会に役立つようなものを探究しようと思ったから。」や「最初は興味があったが探究するにつれてテーマが難しくなってきたから。」という意見が見られた。1・2 学年でのグループ探究活動とは違い、すべてが個人活動になるので、「困ったときに相談する相手がいない」や「視点がかたよってしまう」といった個人で探究活動を進める課題も顕在化しており、グループ活動で得られる多様な視点の重要性が改めて認識された。

図 13 2 学年 R7 「総合的な学習の時間」探究活動アンケート内容より



## (2) 教員の伴走支援方法による生徒の活動の変化

### ①ファシリテーターとして生徒の探究活動を伴走する

教員は、生徒がスムーズに探究活動を進められるよう、テーマ設定、フィールドワーク先のアポイントメント取得、活動計画の策定、活動の方向性、発表資料の準備など、多岐にわたる側面で具体的な助言や支援を提供している。特に、FWのアポイント取得に苦勞する生徒に対し、教員が候補先の検討を支援したり、メール作成を何度も添削したりするなど、粘り強く伴走している様子が伺える。

### ②ジェネレーターとして生徒の探究活動を伴走する

教員は、生徒が活動の方向性を見失ったり、思考が停滞したりした際に、新たな視点や斬新なアイデアを提供することはもちろん、生徒以上に生徒の取り組む探究活動を面白がり一緒にプロジェクトや探究に取り組む「ジェネレーター」としての役割も果たしている。例えば、生徒がテーマ設定で迷っていた際、教員が具体的な事例を示したり、生徒の既存の興味と地域課題を結び付けるような示唆を与えたりする場面が多数見られた。

### ③教員の問いかけにより生徒の探究活動は深化するのか

生徒の多くは、教員からの適切な声かけや支援が探究活動に非常に役立っていると回答している。教員による的確なアドバイスは、生徒が自身の思考の偏りに気づき、新たな視点を取り入れるきっかけとなっており、結果として探究活動の質的な深化に繋がっている。

#### ④A I を活用した探究活動

本校では、生徒が探究活動を進める上で、A I を活用する生徒も多くいる。生徒は、A I を課題設定に関する「壁打ち」や、情報収集のヒントを得るために生徒自身がプロンプト（指示文）を制作して活用している。一方で、A I から得た情報が常に正確とは限らないことを認識し、情報元の確認を心掛ける生徒もいる。これは、A I リテラシーの育成における重要な側面である。

### （3） 生徒の探究活動と地域との関係性

#### ①地域を題材にした探究活動の成果と課題

2 学年のグループ探究では「函館市をよりよいまちに！」という明確な目的が設定されており、多くの生徒が地域課題解決への関心をもっている。一方で、テーマが個人の興味関心と必ずしも一致しない場合、活動意欲に差が生じるという課題も生徒の活動状況より感じる。「地域のために」という目的が、生徒自身の内発的動機と乖離する可能性も示唆された。しかし、多くの生徒は活動を通じて地域貢献への意識を高め、楽しさや達成感を体験している。

#### ②生徒の探究活動を支える地域との繋がり

本校の探究活動は、函館市内だけでなく、札幌市での宿泊研修や、附属学園内の幼稚園・小学校など、多様な地域を生徒の主要な活動フィールドとして活用している。生徒は、これらのフィールドで地域住民、専門家、企業など、様々な外部関係者と直接交流し、インターネットや文献だけでは得られない生きた情報や知見を獲得している。この直接的な体験は、生徒の問いを現実の複雑性と結び付け、より実践的な課題解決能力を育む上で不可欠な要素となっている。

## VI おわりに

本校の「総合的な学習の時間」は、生徒の地域社会での生活体験や生徒個人の興味関心から問いを見出し、自ら課題を設定し、情報を収集・整理・分析し、まとめ表現する探究的な学習活動として位置付けられている。この探究学習を「未来の自分・未来の地域や社会のために頑張る」ための活動と捉え、生徒が将来の進路や夢、挑戦したいことを見付けるきっかけとなることを目指している。1 学年での探究スキルの習得から、地域の魅力を発見するグループ探究活動A、2 学年のグループ探究活動Bによる地域の課題解決に向けたアクションプランの策定、そして3 学年の個人卒業研究という集大成へと続く3 年間の一貫したプロセスを通じて、生徒は「問題発見・解決能力」を段階的に高めている。

特に、教員による「伴走支援」は、生徒自身の問いを見出し、探究を深める上で不可欠な役割を担っている。テーマ設定や活動計画の策定、フィールドワーク時の連絡調整や交渉、そして新たな視点の提供に至るまで、教員はファシリテーターとして生徒の思考を刺激し、主体的な学びを支えている。また、生徒は国語、社会、理科、家庭科といった各教科で培った知識やスキルを総合的に活用し、論理的思考力、情報活用能力、コミュニケーション能力を向上させていることが明らかになった。

今後の課題としては、3 学年の個人探究活動で見られた「孤独感」や「視点の偏り」、そして「論文作成の難しさ」に対し、ピアサポートの導入や、教員によるより個別化された指導の強化が必要である。また、A I の活用が進む中で、情報の真偽を見極めるリテラシーの育成も引き続き重要となる。

次年度以降は、1年間の探究学習カリキュラムの中で身に付く資質・能力の明確化ならびに各教科科目との結び付きを生徒と教員がお互いに共有し、生徒自らの興味や関心、日常生活の中で感じる疑問や困りごとから問いを追求し、地域社会と深く繋がりながら、よりよい未来を創造する担い手として成長できるよう、本校の「総合的な学習の時間」の中で探究学習の更なる質の向上に努めていく。

(文責 佐々木 ちひろ)

#### <引用文献>

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「総合的な学習の時間編」』  
2017年 第2章総合的な学習の時間の目標 第1節目標の構成 p.8

#### <参考文献>

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「総合的な探究の時間編」2018年
- ・北海道函館西高等学校 第8回NITS大賞事例集『北海道函館西高等学校探究懇話会から始まる社会との共創～探究活動を円滑にするフラットな研修の仕組み～』2025年
- ・藤原さと『協働する探究のデザイン 社会をよくする学びをつくる』平凡社 2023年
- ・市川力、井庭崇『ジェネレーター：学びと活動の生成』学事出版 2022年
- ・学校法人新渡戸文化学園編著『探究のコンパス 学びのデザインを変える15のヒント』明治図書 2025年
- ・カーラ・マーシャル、レイチェル・フレンチ『思考する教室をつくる概念型探究の実践—理解の転移を促すストラテジー—』北大路書房 2024年
- ・安齋勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社 2020年
- ・幸田国広 編著『高校国語と探究デザイン カリキュラムづくりから授業アイデアまで』明治図書 2025年
- ・北海道教育大学附属函館中学校『教育研究大会研究紀要』2019年

参考資料1 令和7年度「総合的な学習の時間（探究）」第1学年活動計画

令和7年度「総合的な学習の時間（探究）」第1学年活動計画

時	実施時期	計画日付	曜日	実施日	実施時間前	探究ステップ	内容	大学連携	備考
1	4月	4/10	木	4/10	①	探究の基礎	情報探究 (Chrome) ルールの確認・アカウント使用とパスワードの管理・クラスルームの使い方		情報部と連携
2		4/10	木	4/10	②	探究の基礎	情報探究 (Chrome) メールの使い方 (Boice) 署名 (データ) の添付 (リンク)		情報部と連携
3		4/15	火	4/15	①	探究の基礎	情報探究 (Chrome) ドキュメント・スプレッドシート・スライドの使い方・フォームの利用作成		情報部と連携
4		4/15	火	4/15	②	探究の基礎	情報探究 (Chrome) ブックマーク・ショートカット・クラスルーム課題提出・ショートカットコマンド・ブックマークフォルダの作り方 (タブ)		情報部と連携
5	5月	5/23	金	5/23	⑥	オリエンテーション	オリエンテーション (主担当説明・探究って何?・1年間の流れ)		
6	6月	6/4	水	6/4	④	課題設定	地域を知る「図書館ってどんなまち?」～まちについて知ろう～	○	
7		6/9	月	6/9	①	探究の基礎	大学連携 (大学ってどんなところ?) 教育大図書館1日体験・学内見学	○	
8		6/9	月	6/9	②	探究の基礎	大学連携 (大学ってどんなところ?) 教育大図書館1日体験・まちの宝について【講義】	○	
9		6/9	月	6/9	③	探究の基礎	大学連携 (大学ってどんなところ?) 教育大図書館1日体験・課題の選定について	○	
10		6/9	月	6/9	④	探究の基礎	大学連携 (大学ってどんなところ?) 教育大図書館1日体験・調査の方法について	○	
11		6/9	月	6/9	⑤	探究の基礎	大学連携 (大学ってどんなところ?) 教育大図書館1日体験・大学生との交流	○	
12		6/9	月	6/9	⑥	探究の基礎	大学連携 (大学ってどんなところ?) 教育大図書館1日体験・振り返り	○	
13		7/4	金	7/4	⑥	探究の基礎	情報収集の方法①情報収集ワークショップ		
14	7/4	金	7/4	⑥	探究の基礎	情報収集の方法②情報収集ワークショップ			
15	8月	8/29	金	8/29	⑥	課題設定	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (オリエンテーション・課題意識調査)		
16	9月	9/1	月	9/1	③	課題設定	2年探究発表会の参加～先輩の探究から思いを見つけよう!～	○	
17		9/1	月	9/1	④	課題設定	2年探究発表会の参加～先輩の探究から思いを見つけよう!～	○	
18		9/9	火	9/9	④	課題設定	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (グループ話し合わせ・課題選定の話し合い①)	○	
19		9/17	水	9/17	⑤	課題設定	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (課題選定の話し合い②)	○	
20		9/18	木	9/18	④	課題設定	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (課題選定の話し合い③)	○	
21		9/24	水	9/24	⑤	課題設定	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査に向けた計画①)	○	
22		9/26	金	9/26	⑥	情報収集	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査に向けた計画②)	○	
23		9/29	月	9/29	⑥	情報収集	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査に向けた計画③)	○	
24	10月	10/1	水	10/1	⑤	情報収集	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査に向けた計画④)	○	
25		10/22	水	10/22	⑤	情報収集	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査①) FW事前	○	
26		10/23	木	10/23	①	情報収集	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査②) FW	○	
27		10/23	木	10/23	②	情報収集	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査③) FW	○	
28		10/23	木	10/23	③	情報収集	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査④) FW	○	
29		10/23	木	10/23	④	情報収集	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査⑤) FW	○	
30		10/23	木	10/23	⑤	整理・分析	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査⑥) FW	○	
31		10/23	木	10/23	⑥	整理・分析	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (実地調査⑦) FW	○	
32	10/24	木	10/24	⑥	整理・分析	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (スライド発表の基本)			
33	11月	11/10	月		⑤	整理・分析	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (スライド作成・準備①)		
34		11/10	月		⑥	整理・分析	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (スライド作成・準備②)		
35		11/18	火		⑥	整理・分析	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (スライド作成・準備③)		
36		12/4	木		⑥	整理・分析	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (発表練習①)		
37		12/12	金		⑥	整理・分析	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (発表練習②)		
38		12/16	火		①	まとめ・表現	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (学年内発表準備)	○	
39		12/16	火		②	まとめ・表現	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (学年内発表①)【外部関係者・保護者来校】	○	
40		12/16	火		③	まとめ・表現	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (学年内発表②)【外部関係者・保護者来校】	○	
41	12/16	火		④	まとめ・表現	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (発表振り返り)	○		
42	12/16	火		⑤	振り返り	図書館にある「まちの宝」は何だろう? (1年グループ探究活動Aの振り返り)	○		
43	1月	1/15	木		⑥	オリエンテーション	オリエンテーション (主担当説明・2学年「探究」に向けて・図書館の課題とは?)		グループ探究活動B
44		1/27	火		⑥	課題設定	「図書館・道南の未来を考えよう!」探別懇話会 (外部講師による講演+懇話会)		グループ探究活動B
45		1/27	火		⑥	課題設定	「図書館・道南の未来を考えよう!」課題設定に向けて①～問題発見～		グループ探究活動B
46	2月	2/3	火		⑥	課題設定	「図書館・道南の未来を考えよう!」課題設定に向けて②～問題発見～		グループ探究活動B
47		2/19	木		⑤	課題設定	「進路」って何だろう?		教務部と連携
48	3月	2/19	木		⑥	情報収集	「先生の履歴書」～先生たちが歩んだ進路～		教務部と連携
49		3/10	火		⑤	情報収集	中学卒業後の進路を知ろう～多様な進路～		教務部と連携
50		3/10	火		⑥	情報収集	進路担当より～先輩方の受験体験談+今年度の入試について～【1・2学年合同】		教務部と連携

参考資料2 令和7年度「総合的な学習の時間（探究）」第2学年活動計画

令和7年度「総合的な学習の時間（探究）」第2学年活動計画

№	実施時期	計画日付	曜日	実施日	実施形態	担任スタッフ	内容	大学連携	備考
1	4月	4/30	水	4/30	①	オリエンテーション	オリエンテーション（教科書開封、2学期「探究」の目的と進捗、1年間の振り返り）		
2		5/1	木	5/1	②	探題設定	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		基本スキルシート（Canvas）
3		5/7	水	5/7	①	探題設定	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
4		5/9	金	5/9	②	探題設定	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
5	5月	5/22	水	5/22	③	探題設定	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
6		5/22	木	5/22	④	探題設定	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
7		5/29	水	5/29	⑤	探題設定	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
8		5/29	火	5/29	⑥	探題設定	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		ここから活動範囲に！
9	6月	6/3	火	6/3	⑦	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題、テーマ決定（調査計画）（調査の目的や探題も決まっています）		
10		6/3	火	6/3	⑧	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題、テーマ決定（調査計画）（調査の目的や探題も決まっています）		
11		6/10	火	6/10	⑨	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備①		テーマ決定打ら①
12		6/10	火	6/10	⑩	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備②		テーマ決定打ら②
13		6/16	月	6/16	⑪	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備③		アンケート調査FWアポイントも実施
14		6/17	火	6/17	⑫	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備④		アンケート調査FWアポイントも実施
15		6/25	水	6/25	⑬	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備⑤		アンケート調査FWアポイントも実施
16		6/25	木	6/25	⑭	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備⑥		アンケート調査FWアポイントも実施
17		7/4	金	7/4	⑮	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備⑦		
18		7/5	土	7/5	⑯	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備⑧		CO2削減に活動内容発表も実施
19	7/8	火	7/8	⑰	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」FWアポイント、調査活動準備⑨		探題アポイントも実施FWアポイント開始	
20	7月	7/16	水	7/16	⑱	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」（実地調査②）FW（アンケート、インタビューなど）		
21		7/16	水	7/16	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」（実地調査③）FW（アンケート、インタビューなど）		
22		7/16	水	7/16	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」（実地調査④）FW（アンケート、インタビューなど）		
23		7/16	水	7/16	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」（実地調査⑤）FW（アンケート、インタビューなど）		
24		7/16	水	7/16	⑲	整理、分析振り返り	「探題中の未来を考えよう！」（実地調査⑥）FWまとめ、中間発表準備①も実施計画		
25		7/23	水	7/23	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」中間発表準備②も実施計画		中間発表準備①も実施アポイント
26	7/23	水	7/23	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」中間発表準備③も実施計画		中間発表準備①も実施アポイント	
27	7/23	水	7/23	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」中間発表準備④も実施計画		中間発表準備①も実施アポイント	
28	8/18	月	8/18	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～			
29	8/28	水	8/28	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～			
30	8/29	金	8/29	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～			
31	9月	9/1	月	9/1	⑲	まとめ、発表	「探題中の未来を考えよう！」2年探究中間発表準備①の発表（調査①）	○	
32		9/1	月	9/1	⑲	まとめ、発表	「探題中の未来を考えよう！」2年探究中間発表準備②の発表（調査②）	○	
33		9/2	火	9/2	⑲	まとめ、発表	「探題中の未来を考えよう！」2年探究中間発表準備③の発表、最終発表者決定	○	
34		9/2	火	9/2	⑲	振り返り	「探題中の未来を考えよう！」2年探究中間発表準備の振り返りと今後の調査計画	○	
35	9/17	水	9/17	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～			
36	9/24	水	9/24	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～			
37	9/25	水	9/25	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～			
38	10月	10/3	金	10/3	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
39		10/8	水	10/8	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
40		10/9	水	10/9	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
41		10/9	水	10/9	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
42		10/9	水	10/9	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
43		10/9	水	10/9	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
44		10/9	水	10/9	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
45		10/9	水	10/9	⑲	情報収集	「探題中の未来を考えよう！」探題設定に向けて①～②の探題設定～		
46		10/14	月	10/14	⑲	整理、分析	中間発表のまとめと最終発表準備に向けて①～②の探題設定～		
47		10/22	水	10/22	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」最終発表に向けて①（発表資料準備）		
48	11/8	火	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」最終発表に向けて②（発表資料準備）				
49	11/11	火	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」最終発表に向けて③（発表資料準備）				
50	11/11	火	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」最終発表に向けて④（発表資料準備）				
51	11/14	金	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」2年までの振り返りからわかること（プレゼン発表）※研究大会参加	○			
52	11/18	火	⑲	整理、分析	「探題中の未来を考えよう！」最終発表に向けて⑤（プレゼン発表）※研究大会参加				
53	12/4	水	⑲	まとめ、発表	「探題中の未来を考えよう！」最終発表に向けて⑥（発表資料準備）	○			
54	12/4	水	⑲	まとめ、発表	「探題中の未来を考えよう！」最終発表に向けて⑦（発表資料準備、保護者参加）	○			
55	12/4	水	⑲	まとめ、発表	「探題中の未来を考えよう！」最終発表に向けて⑧（発表資料準備、保護者参加）	○			
56	12/4	水	⑲	振り返り	「探題中の未来を考えよう！」最終発表振り返り①グループ別発表振り返り	○			
57	12/5	金	⑲	オリエンテーション	卒業研究「オリエンテーション」キャリアと卒業研究テーマ募集（説明会あり）		教務部と連携		
58	12/8	月	⑲	探題設定	3年卒業研究最終発表の準備～先輩の経験から聞いて見よう！～				
59	12/8	月	⑲	探題設定	3年卒業研究最終発表の準備～先輩の経験から聞いて見よう！～				
60	12/10	水	⑲	探題設定	卒業研究（他学部）非本専修に向けて①探題設定①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺				
61	12/12	金	⑲	探題設定	卒業研究（他学部）非本専修に向けて①探題設定②グループ別完了テーマ発表①				
62	12/12	金	⑲	探題設定	卒業研究（他学部）非本専修に向けて①探題設定③グループ別完了テーマ発表②				
63	12/16	火	⑲	情報収集	卒業研究テーマ発表に向けて①調査計画②～計画立ててアポイント取り～（他学部）				
64	12/16	火	⑲	情報収集	卒業研究テーマ発表に向けて②調査計画③～計画立ててアポイント取り～（他学部）				
65	12/18	木	⑲	情報収集	卒業研究テーマ発表に向けて③調査計画④～計画立ててアポイント取り～（他学部）				
66	1/2	火	⑲	情報収集	卒業研究テーマ発表に向けて④調査計画⑤～計画立ててアポイント取り～（他学部）				
67	1/2	火	⑲	情報収集	卒業研究テーマ発表に向けて⑤調査計画⑥～計画立ててアポイント取り～（他学部）				
68	1/2	火	⑲	情報収集	卒業研究テーマ発表に向けて⑥調査計画⑦～計画立ててアポイント取り～（他学部）				
69	2/3	火	⑲	情報収集	卒業研究テーマ発表に向けて⑦調査計画⑧～インタビュー調査準備～（他学部）				
70	2/10	火	⑲	情報収集	卒業研究テーマ発表に向けて⑧調査計画⑨～インタビュー調査準備～（他学部）				

参考資料3 令和7年度「総合的な学習の時間（探究）」第3学年活動計画

令和7年度「総合的な学習の時間（探究）」第3学年活動計画

期	実施時期	計画日付	曜日	実施日	実施時間割	探究ステップ	内容	大学連携	備考	
4月	1	4/7	月	4/7	①	情報収集	卒業研究実地調査最終視察（インタビュー調査・見学調査）①			
	2	4/7	月	4/7	①	情報収集	卒業研究実地調査最終視察（インタビュー調査・見学調査）②			
	3	4/7	月	4/7	①	情報収集	卒業研究実地調査最終視察（インタビュー調査・見学調査）③※制形式異なる			
	4	4/8	火	4/8	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）①			
	5	4/8	火	4/8	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）②			
	6	4/8	火	4/8	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）③			
	7	4/8	火	4/8	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）④			
	8	4/8	火	4/8	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）⑤			
	9	4/8	火	4/8	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）⑥			
	10	4/9	水	4/9	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）⑦			
	11	4/9	水	4/9	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）⑧			
	12	4/9	水	4/9	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）⑨			
	13	4/9	水	4/9	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）⑩			
	14	4/9	水	4/9	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）⑪			
	15	4/14	月	4/14	①	情報収集	卒業研究実地調査（インタビュー調査・見学調査）の振り返りとまとめ ※制形式異なる			
5月	16	4/17	木	4/17	①	オンラインセッション	オンラインセッション（全組員参加・各自が決め、卒業研究のゴールに向けて）			
	17	4/17	木	4/17	①	課題設定	卒業研究（課題設定の視察・調査計画） 卒業研究計画を考える①			
	18	4/24	木	4/24	①	課題設定	卒業研究（課題設定の視察・調査計画） 卒業研究計画を考える②			
	19	4/24	木	4/24	①	課題設定	卒業研究（課題設定の視察・調査計画） 卒業研究計画を考える③			
	20	4/28	月	4/28		課題設定	進捗報告より一歩進めガイダンス・進捗状況に向けて1年間の見通し〜		西森部と連携	
	21	5/2	金	5/2	①	課題設定	卒業研究（課題設定の視察・調査計画） 卒業研究計画を考える④			
	22	5/9	金	5/9	①	課題設定	卒業研究（課題設定の視察・調査計画） 卒業研究計画を考える⑤			
	23	5/9	金	5/9	①	情報収集	卒業研究（調査計画をしよう①） 調査準備（アポ+質問紙封+活動準備）			
	24	5/13	火	5/13	①	情報収集	卒業研究（調査計画をしよう②） 調査準備（アポ+質問紙封+活動準備）			
	25	5/13	火	5/13	①	情報収集	卒業研究（調査計画をしよう③） 調査準備（アポ+質問紙封+活動準備）			
	26	5/23	金	5/23	①	情報収集	卒業研究（調査計画をしよう④） 調査準備（アポ+質問紙封+活動準備）			
	27	5/29	木	5/29	①	情報収集	卒業研究（調査計画をしよう⑤） 調査準備（アポ+質問紙封+活動準備）			
	28	5/30	金	5/30	①	情報収集	卒業研究（調査計画をしよう⑥） 調査準備（アポ+質問紙封+活動準備）			
	6月	29	6/10	火	6/10	①	情報収集	業校別委員会（当該市内の業校別委員会@本校内）①		西森部と連携
		30	6/10	火	6/10	①	情報収集	業校別委員会（当該市内の業校別委員会@本校内）②		西森部と連携
31		6/13	金	6/13	①	情報収集	業校別委員会（当該市内の業校別委員会@本校内）③		西森部と連携	
32		6/13	金	6/13	①	情報収集	業校別委員会（当該市内の業校別委員会@本校内）④		西森部と連携	
33		6/16	月	6/16	①	情報収集	業校別委員会（当該市内の業校別委員会@本校内）⑤		西森部と連携	
34		6/16	月	6/16	①	情報収集	業校別委員会（当該市内の業校別委員会@本校内）⑥		西森部と連携	
35		6/20	金	6/20	①	情報収集	卒業研究（調査計画をしよう⑦） 調査準備（アポ+質問紙封+活動準備）			
36		6/23	月	6/23	①	情報収集	卒業研究（調査計画をしよう⑧） 調査準備（アポ+質問紙封+活動準備）			
37		6/28	木	6/28	①	情報収集	卒業研究（実地調査①） 第1回FW【アンケート・インタビュー（対面・オンライン）、資料閲覧の他）	○		
38		6/28	木	6/28	①	情報収集	卒業研究（実地調査②） 第1回FW【アンケート・インタビュー（対面・オンライン）、資料閲覧の他）	○		
39		6/28	木	6/28	①	情報収集	卒業研究（実地調査③） 第1回FW【アンケート・インタビュー（対面・オンライン）、資料閲覧の他）	○		
40		6/28	木	6/28	①	情報収集	卒業研究（実地調査④） 第1回FW【アンケート・インタビュー（対面・オンライン）、資料閲覧の他）	○		
41		6/28	木	6/28	①	整理・分析	卒業研究（実地調査⑤） 第1回FWのまとめ+第2回FWの準備			
42		6/28	木	6/28	①	整理・分析	卒業研究（実地調査⑥） 第1回FWのまとめ+第2回FWの準備			
43		7/8	火	7/8	①	整理・分析	卒業研究（実地調査⑦） 第2回FWの準備			
7月	44	7/15	火	7/15	①	情報収集	卒業研究（実地調査⑧） 第2回FW【アンケート・インタビュー（対面・オンライン）、資料閲覧の他）	○		
	45	7/15	火	7/15	①	情報収集	卒業研究（実地調査⑨） 第2回FW【アンケート・インタビュー（対面・オンライン）、資料閲覧の他）	○		
	46	7/15	火	7/15	①	情報収集	卒業研究（実地調査⑩） 第2回FW【アンケート・インタビュー（対面・オンライン）、資料閲覧の他）	○		
	47	7/15	火	7/15	①	情報収集	卒業研究（実地調査⑪） 第2回FW【アンケート・インタビュー（対面・オンライン）、資料閲覧の他）	○		
	48	7/18	水	7/18	①	整理・分析	卒業研究（実地調査⑫） 第2回FWのまとめ			
	49	7/22	火	7/22	①	整理・分析	卒業研究（中間発表に向けて+夏休み中の活動について）			
	50	7/22	火	7/22	①	整理・分析	卒業研究（中間発表準備①）			
8月	51	8/18	月	8/18	①	まとめ・発表	卒業研究（中間発表準備②）			
	52	8/29	金	8/29	①	まとめ・発表	卒業研究（中間発表準備③）			
	53	9/1	月	9/1	①	まとめ・発表	卒業研究中間発表会①（各活動教室内）	○		
	54	9/1	月	9/1	①	まとめ・発表	卒業研究中間発表会②（各活動教室内）	○		
9月	55	9/4	木	9/4	①	まとめ・発表	卒業研究中間発表会③（学年内発表会全体体育館+代発表決定）	○		
	56	9/4	木	9/4	①	振り返り	中間発表会振り返り+卒業研究最終発表と論文完成に向けて（活動計画見直し）	○		
	57	9/19	金	9/19	①	まとめ・発表	卒業論文執筆①（執筆指導+発表準備）	○		
	58	10/9	木	10/9	①	まとめ・発表	卒業論文執筆②（執筆指導+発表準備）	○		
10月	59	10/9	木	10/9	①	まとめ・発表	卒業論文執筆③（執筆指導+発表準備）	○		
	60	10/23	木	10/23	①	まとめ・発表	卒業論文執筆④（執筆指導+発表準備）	○		
	61	11/8	木		①	まとめ・発表	卒業研究最終発表会準備①（発表練習）	○		
11月	62	11/25	火		①	まとめ・発表	卒業研究最終発表会準備②（発表練習） ※卒業最終締め切り	○		
	63	12/1	月		①	課題設定	受給計画を立てよう（受験校の入試スケジュール確認+面接試験準備など）		西森部と連携	
	64	12/5	金		①	まとめ・発表	卒業研究最終発表会準備③（発表練習）	○		
	65	12/5	金		①	まとめ・発表	卒業研究最終発表会準備④（発表練習）	○		
	66	12/8	月		①	まとめ・発表	卒業研究最終発表会に向けて（発表準備）	○		
	67	12/8	月		①	まとめ・発表	卒業研究最終発表会①【外部関係者・保護者来校】	○		
	68	12/8	月		①	まとめ・発表	卒業研究最終発表会②【外部関係者・保護者来校】	○		
	69	12/8	月		①	まとめ・発表	卒業研究最終発表会③【外部関係者・保護者来校】	○		
	70	12/8	月		①	振り返り	会場撤去+卒業研究最終発表会振り返り	○		